

# 音楽情報科学研究会のページ

## 第2回 音楽情報科学研究会のお知らせ

(なお今回は、(社)東洋音楽学会関西支部 第164回定例研究会と共催です)

日時: 1993年6月12日(土) 13:30 — 16:50

会場: 国立民族学博物館 2F 第5セミナー室

住所: 〒565 大阪府吹田市千里万博公園10番1号、TEL: 06-876-2151(代)

道順:

1. 北大阪急行(JR新大阪駅より乗換・地下鉄御堂筋線乗入)「千里中央駅」または阪急「南茨木駅」にてモノレール乗換「万博記念公園」下車徒歩15分(自然文化園をぬける際150円必要)
2. JR「茨木駅」より阪急バスまたは近鉄バス「エキスポランド行き」にて「日本庭園」下車(バスは1時間に2本のみ)徒歩15分
3. 上記「千里中央駅」「茨木駅」他よりタクシー

↑1から3のいずれかの方法でおこしてください。そして、建物北側の通用口から守衛さんに情報処理学会・東洋音楽学会合同例会参加者であることを告げてお入りください。正面入口からお入りになりますと一般来館者なみに入館料が必要となりますのでご注意ください。

発表時間割:

1. 13:30 — 14:30

題目: 国立民族学博物館における音響データベース

発表者: 中川隆、鈴木明、杉田繁治(民博)

概要: 民博で構築中のマルチメディアデータベースの一環となる音楽・昔話などの音響データベースの紹介  
— 20分休憩 —

2. 14:50 — 15:50

題目: 長唄において三味線の音色はどのように弾き分けられているか? — 小十郎譜を例にとった場合 —

発表者: 矢向正人(九州芸工大)

概要: 特殊奏法や糸を替えることにより変化する三味線の音色は旋律中でどう弾き分けられているか分析する

2. 15:50 — 16:50

題目: 日本音楽の情報処理 — 尺八の場合

発表者: 志村哲(大阪芸大)、坪井邦明(浜松職業能力開発短大)、松島俊明(東邦大)

概要: 日本音楽の情報処理の方法について伝統的記譜法と演奏様式の特徴より考察し記述方法と応用例を示す

## 幹事だより

音情研から情報処理学会の研究会に移行して初めての研究会が開かれます/じた。予稿集(研究会資料)の体裁も大きく変わり、今回から当分の間は、音情研のような内容盛り沢山のページ数の多い会報が出せませんが、実際は現在も先月までと大体同じ幹事メンバで企画、運営を続けております。

今まで音情研会員から寄せられた様々なコメントを検討しながら、より多くの方々に興味を持って頂けるような研究会活動を進めていきたいと考えています。音情研は会員一人一人に支えられて成り立っています。これからも皆様の積極的な参加を宜しくお願いします。

## 2月例会の質疑応答

記録: 柏野 邦夫 (東京大学)

### (1) Ioannis Zaunos : "Minimus: A Minimal Musical Programming Language"

- Q: 平田 (ICOT) Minimus は MAX の拡張なのか?  
A: MAX は動的に reconfiguration できない。その点を拡張したものが Minimus である。  
Q: その他に、Minimus にできて MAX にできないことは?  
A: グリッサンドなどが専用のオブジェクトで高速に実現できることや、“moving point” の概念が挙げられる。  
Q: 河合 (理研) 音高空間を張るベクトルの成分は、どのようなものか。それは必然性があるのか、それとも任意に選択できるのか。  
A: 現在、点間のインターバルは 3 度、5 度、7 度となっているが、将来はこれを柔軟に変更できるようにしたい。  
Q: 柏野 (東大) システムが音楽を縛り、似たような音楽ばかりが生まれるようなことはないのか。  
A: パラメータ制御の容易さが MAX よりも優れており、そのような危険は少ない。  
Q: 平田 (ICOT) 並列プログラミングは一般に困難であるが、オブジェクトが自分の意図した通りにコンカレントに働いていることを確認するのが難しいのでは。  
A: 言語が小さいので、比較的扱いやすいと考えている。デバッガや可視化ツールも将来的には必要かも知れない。

### (2) Fernando Lopez Lezcano : "A Four Channel Dynamic Sound Movement System"

- Q: 田口 (甲南大) 残響の利用に関しては?  
A: 残響を含む音もあるが、仮想空間における実際の残響というわけではない。  
Q: 田口 (甲南大) このシステムによって、作品の意図が十分満足に表現されているか?  
A: 必ずしも十分というわけではない。  
Q: 田口 (甲南大) 特定の方向だけに音を放射している音源は扱うことができるか?  
A: 現在は扱えないが、面白いアイデアだと思う。  
Q: 平賀 (図書館情報大) Bezier 曲線の適用法は?  
A: 任意の点の集合に、Bezier 曲線をフィットさせるアルゴリズムが存在するので、それを用いている。  
Q: 平賀 (図書館情報大) 音源の移動が加速度一定となっているが、物体が仮想的に瞬間移動したりすると面白いのでは。  
A: 実現は可能である。  
Q: 平賀 (図書館情報大) 音源の形状は点だけなのか?  
A: 当面は点音源のみを考える。  
Q: 平田 (ICOT) システム動作上のボトルネックは?  
A: DSP が 1 個のシステムなら、DSP での処理がボトルネックとなるだろう。本システムでは 11 個の DSP を用いているので、ボトルネックはディスクの入出力であると考えられる。

### (3) Michael Cohen, Nobuo Koizumi : "Audio Windows for Virtual Concerts"

- Q: 平田 (ICOT) このシステムをテレコンファレンスに実際に使っているか? 実際に使うのが、ひとつの良い評価法と思うが。  
A: 社内では、テキストやビデオなどを用いるグループウェア環境を作っており、本システムはそのユーザーインタフェースのひとつとして検討を進めているものであるが、まだ実際に運用しての評価は行っていない。

† (当日、時間切れのために質問を打ち切りました)

## 編集後記

大矢健一 (長野高専)

音楽情報科学研究会の会報編集をまだ私的な研究会であった昨年度から担当していましたが、今年度は、この欄の編集を引き続き行うことになりました。よろしくお願いたします。